

DF サポーター第5回養成研修会開催のお知らせ

DF サポーターとして活動して下さる方を養成する研修会を、8月6日(土)・7日(日)の2日間で開催いたします。場所は北海道医療大学サテライトキャンパス(アスティ45)を予定しています。みなさまの参加をお待ちしています。内容詳細は、決まり次第発送させていただきます。

認知症フレンドシップスポットのご紹介



Vegetable & Fruits 長谷川商店

(札幌市南区真駒内本町5丁目1-12 tel:0120-124461)

食べる事と健康に関心のある人へ向け情報発信している進化する八百屋さんです。野菜ソリエの長谷川さんとおしゃべりしながら楽しくお買物をしてみませんか?旬のお野菜がいっぱい!【クラブ特典】おすすめの旬の野菜をプレゼント

認知症フレンドシップスポット7店舗

- **癒しサロン Spring〜スプリング〜** (苫小牧市新開町1丁目 TEL:090-3770-6891)
- **成吉思汗専門店 義経** (札幌市北区北7条西5丁目)
- **活かに水産市場 いなば食品** (函館市若松町9-14 どんぶり横丁内)
- **まどべカフェ すとんぶ** (札幌市豊平区月寒東3条7丁目)
- **創作どら焼き ふくらか** (本店:西区発寒3条5丁目 琴似店:西区琴似1条3丁目)
- **仙麓** (岩見沢市7条西21丁目2-3)
- **Farm 弦** (長沼町東2線北12)
- **和田珈琲館** (札幌市東区北49条東16丁目)

※クラブ特典をご利用の際は、メンバーズカードをご提示ください

認知症フレンドシップクラブ協賛店のご案内!

クラブの活動にご賛同いただき、メンバーの皆さまを応援して下さっている協賛店が、現在14社(店舗)あります。これらのお店では、メンバーズカードを提示することでクラブ特典がもらえます。クラブの発展を祈りつつ、ぜひこれらのお店を利用して、輪を広げていきましょう!



【協賛店】 「柊ワールドプランニング」「北の海手箱 風(ふう)」「酒肴酒菜 掌(てのひら)」「酒と肴 ぐ〜」「和喰今昔生活酒家 文化食堂」「おいしい村 月夜のためき(本店)」「おいしい村 月夜のためき(南一条店)」「和食ダイニング なかなか」「やきとり PUB 一文銭」「やきとり ちょっと一杯」「大安居酒屋 日の出本舗」「地球料理 痛快食堂」「味わい 月灯り」「居酒屋 ばんらい堂」。

※全店ご利用代金から10%サービス。

※※「柊ワールドプランニング」は、学会会場などでの書籍直販のみ対応。

※※※クラブ特典をご利用の際は、メンバーズカードをご提示ください。

現況報告(2011年3月現在)

会員数:388人, DFサポーター数:67人, 認定スポット数:9社(店舗), 協賛店数:14社(店舗)

編集後記

東日本大震災の影響はあまりに大きく、未だ先行きが見えない現状に皆がそれぞれに不安を感じていることと思います。被災された方々へ心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興を切に願っております。



認知症フレンドシップクラブ事務局

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757 北海道医療大学地域保健看護学講座内

Tel / Fax. 0133-23-1462 E-mail. df-club@hotmail.co.jp



認知症フレンドシップクラブ
NEWS LETTER

e-yo!

2011年春 No.5

認知症フレンドシップクラブ事務局

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757

北海道医療大学地域保健看護学講座内

tel/fax. 0133-23-1462



「何ができるのか・何がしたいのか」

認知症フレンドシップクラブ 井出 訓

認知症フレンドシップクラブメンバーの皆様におかれましては、いかがお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。ニューズレター e-yo の発行が遅れ遅れになっていた間に、私たちが暮らすこの国は大きな試練の時を迎えています。メンバーの皆様の中にも、今回の東日本大震災においてご親戚やご友人が被災されたという方がいらっしゃるかもしれません。心からお見舞い申し上げます。

ちょうど卒業式が終わり、恒例のゼミ生との記念写真撮影を済ませ、夕方からの謝恩会に出かける前にもう一仕事を終わらせておこうとパソコンの前に座っている時のことでした。大きな波に船が揺らさされているような感覚に、眩暈かなと頭をあげた瞬間、建物自体がゆらゆらと大きく揺れていることに気づき部屋を飛び出しました。同じようにあちこちの研究室からは、不安そうな面持ちで先生たちが顔をのぞかせており、互いに顔を見合せながら揺れが収まるのをじっと待ちました。揺れが収まり、随分大きかったねと仕事に戻ったときはまだ、その地震によって東北圏に何が起ころうとしていたのかを知る由もありませんでした。

時間とともに次々と届けられてくるニュースや映像に、心を握りつぶされたような気持ちで過ごされた方々も多かったのではないのでしょうか。届けられる情報のどれもが、すさまじい地震と津波の被害を伝えるものばかりでした。そうした多くの情報を前に、止めどなく湧き上がるどこへ向ければ良いのかも分からない恐怖、痛み、怒り、悲しみの感情を、うまくコントロールできずに振り回されている私もいました。また、早々に被災地に入り、被災者の方々の支援をしている友人のレポートなどを読んで、いったい自分は何をしているのだろうと、ただ何もせずにいつも通りの暮らしを続けている自分自身をふがいなく感じたりもしていました。そして、自分に何ができるのだろう、と問い続けていました。

人知の及ばない自然の大きな力の前に打ちのめされる時、人間とはなんと無力ではかない存在であるかを思い知らされます。この地球上のすべては人間の支配下に在り、自分たちの力で全てを獲得し築き上げてきた。そうした考えが人間の愚かで浅はかな、そしてはかない幻想と驕りでしかないことを、これでもかというほどに思い知らされます。そして、そうした中でそれではいったい自分に何ができるだろうかと考えてみても、何の答えも見つけられませんでした。なぜなら、自分には結局どれほどのこともできやしないという現実がぶちあたるからです。ですが、そう考えたときに「自分に何ができるのか」という問いそのものが、自分には何かの力がある、人間には力がある、という驕りから発せられている問いなのではないか。そう気がついたのです。

人間とは何とも無力な存在です。考えてみれば自分の体のことでさえ、爪や髪が伸びることすらコントロールできません。いわば、何も出来ない存在なのではないのでしょうか。ですが、何も出来ない存在だという土台に立てば、何ができるだろうかと考え悩むことはないのです。考えたところで、何もできないのですから。つまり大切なのは、「何ができるか」ということではなく、自分は「何がしたいか」を問うことなのではないでしょうか。自分はこの状況の中で何がしたいのか。ボランティアという言葉の持つ自主性という意味合いは、まさにそうした「何がしたいのか」の問いかけなのだと思うのです。

私たちのフレンドシップクラブも、何かが出来た人たちによって支えられているのではないのだと思います。むしろ、一緒にゴルフをしたい、一緒に温泉に行きたい、友人として支えたい、と願っているたくさんの人たちの「何がしたいのか」によって支えられているのだと思います。私たちは、「何ができるのか」と問うことで、自分には何もできないと考え引き下がってしまうのではなく、自分は何をしたいのだろう、そう自分に問いかけることで、地域の認知症の人や、また被災地に暮らす方々に対しても、私たちの持つ思いや形を届けていくことができるのだと思っています。是非、皆さんの「何がしたいのか」を教えてください。そして、一緒にその思いをつなげていくために、お力をお貸しください。どうぞよろしく願いいたします。



認知症フレンドシップクラブの活動報告

震災乗越えシンポジウムに参加

東日本大震災の翌日でしたので、羽田に向かう交通機関の状況が正確に分からないまま羽田に向かって家を午前7時に出ました。妻が疲労と貧血で身動きとれない満員電車の中で倒れてしまいました。途中で引き返そうかとも思いましたが、妻も少し元気になりましたので変則な乗り継ぎをしながら午後3時過ぎには羽田に着くことができました。キャンセル待ちで無事に4時30分頃の札幌行きに乗ることができました。二人とも、疲労困憊でしたが飛行機に乗った時は嬉しかったですね。

千葉県 柏事務局

柏事務局の立ち上げで会員になられた方々と日帰りのモニター旅行に参加しました。東京事務局の徳田さん知り合いの旅行代理店とのコラボで、いちご狩り+マザー牧場に行きました。ご本人と家族が5組、そしてサポーターの方々と総勢20人ほどでした。少し課題も残りましたが楽しい旅行でした。

5月15日(日)「柏市民活動フェスタ2011～みつけよう心でつなぐ地域の和～」に参加します。井出先生のミニ講演、来場者とのフリートーク、若年認知症相談会等を企画しています。ぜひ、皆さんの参加とご協力をよろしくお願いします。

柏事務局 青津 彰



はじめまして石狩事務局です。

皆様はじめまして。石狩事務局の木元と申します。去年の暮れ平成22年12月に石狩事務局が立ち上がりました。まず、その経緯についてお話したいと思います。

平成22年8月に石狩市のキャラバンメイトの活動の中で、「～認知症になっても安心してくらせる街づくり～」というテーマで研修を企画しました。その研修で井出先生を講師に招き「認知症フレンドシップクラブの活動」についてお話をさせていただきました。お話の中で「DFサポーターの第一号の利用者が石狩市在住の方だった」ということを聞き、ゆかりのある石狩に事務局がないのはおかしいと感じ石狩のDFサポーターの中で立ち上げの準備をしていきました。それから4ヶ月が経過し、井出先生と田辺さん、石狩市のDFサポーターが集まり、親睦会をおこない発足に至りました。現在の活動については、石狩事務局独自のリーフレットの作成、4月6日に石狩事務局会議をおこない、今年度の計画を検討しました。また、先日スポットへ加わっていただける店舗が2件あり、登録へ向けて活動しているところであります。

今年度の計画は、4月も含めて5回程の事務局会議を開催していき、イベントを2回、石狩市でのDFサポーター養成講座の開催できればと思っております(あと忘年会も)。イベントの内容としては石狩事務局ではキックオフイベントをまだ開催していないため、「認知症フレンドシップクラブとは」といった内容での開催と、もうひとつのイベントとしては「認知症フレンドシップクラブツアー」的なものをできればと検討中です。

これからも石狩事務局メンバー一致団結して、がんばっていききたいと思いますので、皆さまの応援とご協力のほどよろしくお願いいたします。

石狩事務局 木元国友

帯広事務局を開設しました。

こんにちは、帯広事務局発起人の、荒 浩美と申します。昨年11月の認知症の研修会でDFCの活動を知り、またまた翌日の研修会で函館事務局の細田さんにお会いして「帯広にもあったらいいなあ～」とつぶやいたら「作れば良いしょっ!!」と一言。

その言葉が心に響き「そうだ!作ろう!じゃあ、どうする?」と、1月末に井出先生、内ヶ島先生に会いに札幌へ。その後仲間作りに3ヶ月。この度、井出先生と内ヶ島先生をお呼びして、4月24日に帯広で認知症サポーター養成講座&DFC説明会を開催しました。十勝管内から64人が集合しました。福祉関係のお仕事をされている方や地

帯広事務局 荒 浩美



域包括の方、行政の方、認知症介護者の方、また主婦や定年退職された方々が参加されました。さらに、喫茶店や居酒屋等のフレンドシップスポットとして希望されている店舗の方も参加されました。私の力や想いは小さいですが、集まっていた64人の心をつなぐと素敵な帯広チームが出来そうでワクワクします。当日のフレンドシップクラブの入会も25人あり、事務局ボランティアにも20人以上が賛同してくれて心強いです。3年、5年、10年かけて、「必要な人に必要な手をつなげる」「安心して穏やかに地域で暮らせる」「自分が歳をとったときにあつたら幸せ」をモットーにゆるやかに楽しく進んでゆきたいです。第2弾は7月に居酒屋交流会を企画中です(^.^)是非帯広でDFサポーターを養成する研修会を開催できるように～♪よろしくお祈りします!

シンポジウム報告

東京事務局 徳田 雄人

3月13日、札幌市でシンポジウム「認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを考える」が開催されました。冒頭の基調講演では、松本一生さん(松本診療所も忘れクリニック院長)から、認知症の診療の現状や認知症の人を支えるまちづくりの取組みについてのお話がありました。続いてのパネルディスカッションでは、前田隆行さん(町田市おりづる工務店)、八森淳さん(地域医療研修センター 副センター長)、青津彰さん・優子さん夫妻(フレンドシップクラブ柏事務局代表)、鈴木正昭さん(北海道保健福祉部福祉局高齢者保健福祉課)による報告と討論が行われました。

近年、全国的に認知症サポーターや地域資源マップなどの取組みは広がっているものの、サポーターが活躍できる場がなかったり、認知症の人のニーズに立脚しない支援が少なくないのが現状です。パネルディスカッションは、できるのことの延長で未来を構想するのではなく、みなさんの各現場からの報告をもとに、本当に何が必要なのか、あるべき地域の未来をもう一度考える場となりました。

パネラーの皆さんの議論からは、認知症の人や家族が安心して暮らせる社会とは、医療や介護サービスが十分にあるということだけではなく、誰もが社会とつながりを持ち続け、時には、働く場があり誰かに喜んでもらえることであつたり、時には、町へでかける場所があり、ともに楽しい時間を過ごせたりということではないかという認識を共有することができました。また、今後、こうした社会を実現するためには、義務的な取組みでは継続していかないため、楽しんで取り組み、様々な人が力を出せるような「祭り」の要素が必要ではないかという点も確認されました。フレンドシップクラブでは、今後もこうした認識に立脚しながら、活動を発展させていきたいと思ひます。

函館事務局 渡邊 裕子

こんにちは! 函館事務局です!! \ (^o^) /

2008年8月に、井出代表とお会いするきっかけを頂きました。メンバーは他の活動でも顔を合わせることが多い面々で、介護支援専門員や包括支援センターの職員です。事務局を置いていただいている黒一点で(昔の)王子さまの細田さんほか、(最近息切れする特に私...) チャーリーズエンジェルばりの美女(?) 5人の計6人です。このときDFCの活動に感銘を受け、語り合った熱い思いを胸に2008年10月の発足準備の会議を皮切りに、立ち上げに至りました。実際のスタートは2009年4月からで、まずはそれぞれの持つネットワークを駆使し広報活動を行うことからはじめることとしました。歩みののろい私達ですが、「できることから始めよう!!」と、地道に広報活動を重ね、本部の力強いバックアップで、2010年3月27日28日に祈願の「DFCサポーター養成講座」を開催する事ができ、約40名の方が参加くださいました。事務局では、このとき、サポーターの登録を頂いた方との交流を企画していますが、実現に至っておらず、ご迷惑かけています。また、同年12月5日には、「安心して暮らせる福祉のまちづくり研修会」に共催し、540名以上の方に広報することができました。これまで実際のサポーター活動はまだまだ少なく、事務局の細田さんが「プールへ同行したケース」のみですが、この方への支援の報告を大切に、「依頼くださる方が、何時でも必要な時に相談できるように…」と、事務局はいつでも動ける体制を整えておきたいと考えています。勢いと、熱意だけは強気なのですが、結構地道な函館事務局をこれからも宜しくお祈りしますm(____)m